

あ い さ つ

学会長代行挨拶

高知女子大学看護学会長代行

山 崎 智 子

皆さんしばらくでした。一年一回、七夕様のような学会でございますが、お暑い中を遠くからご出席下さりありがとうございます。今年で16回と回を重ねてまいりました。本来ならば、ここに和井先生が立たれてご挨拶をとということだったわけです。皆さん方御承知のように、この5月に亡くなってしまわれまして、再び私どもの前に姿を現すことができません。昨年は芝田先生を失ない、そして今年は和井先生が逝ってしまわれたわけです。和井先生はこの学会にはとにもかくにも出席したい、はってでも出てきて皆さん方の顔を見たいという方だったわけですから……。そしてまた、芝田先生も時間の許す限りご出席下さり貴重なご意見をいただいたということを思い出すわけです。この学会も回を重ねるにつれて、会員の数も次第に増えてまいりました。そして質、量ともに学会としての様相を整え、大きく発展して参りましたこと、感慨深いものがあります。お二人の大事な先生を失ったということは、本学会にとりまして大変なる損失ではございますが、こればかりはいたしかたありません。今後に向けて頑張っていかなければ、というふうに思っております。学会としての様相を整えたとはいえ、まだまだ改善の余地が多々あると思います。運営委員の皆さん方のご努力によって、そしてまた学会員の皆さん方の積極的な学会参加という形での協力によって、ますます発展していくものと期待いたしております。暑い中ではございますが、今日、明日と討議を深め、そしてまた、親交をも深めて2日間有意義に過ごしていただきたいと思っております。学会開催にご努力いただきました運営委員の皆様へ感謝申し上げます、以上でご挨拶とさせていただきます。